

「旧中村家」第一期工事完了現場公開資料



茅葺き民家「旧中村家」とは

飛騨みやがわ考古民俗館は、豊富な民俗資料と考古資料から、飛騨の人々がいかに山間部で生きてきたかを学ぶことができる施設です。いにしへの暮らしの道具に宿る先人の知恵の結晶を、未来へ継承していきます。その館内に、平成2年に当時の宮川村(今の飛騨市)へ寄贈され、平成3年に宮川町洞から移築された合掌造りの茅葺き民家「旧中村家」が野外展示されています。

茅葺き民家「旧中村家」は、宮川町内に残る唯一の入母屋の合掌造りです。明治初期に建てられたもので、当時の典型的な農家建築と位置付けられ、市の文化財(有形文化財-建造物)に指定されています。

平成4年12月16日指定

多大なご寄附による修復と未来の「旧中村家」

飛騨みやがわ考古民俗館に実物展示している茅葺き民家「旧中村家」は、土台が傾き、屋根が傷み、修復の時期を迎えていました。令和2年度から飛騨市ふるさと納税の使途メニューの一つとして、現在まで8,000万円あまりのご寄付をいただきました。そのお陰様で、今年度より修復工事に入ることができました。

修理前より、蚕から生糸を紡ぐなどの生活体験をしていました。今回整備をして、市内外の方々が囲炉裏で鮎を焼いて食べたり、子どもたちによる土器づくりイベントを行ったりするなど、憩いの場としての活用がなされました。今後もさらなる活用を図っていきます。

〒509-4292 岐阜県飛騨市古川町2-22 飛騨市教育委員会事務局 文化振興課
TEL:0577-73-7496 FAX:0577-73-7497 E-mail:bunkashinkou@city.hida.lg.jp

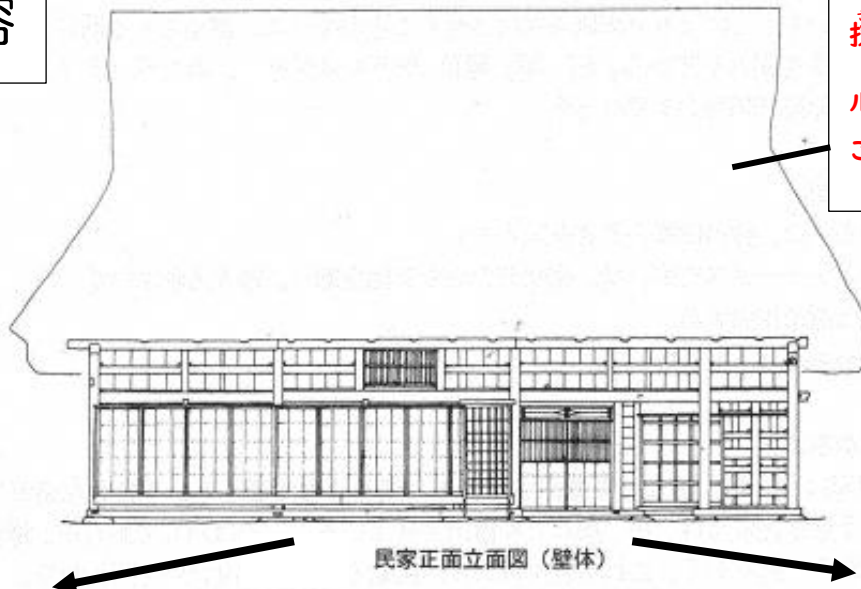


工事や活用の写真



奥家(奥)の動画

工事内容

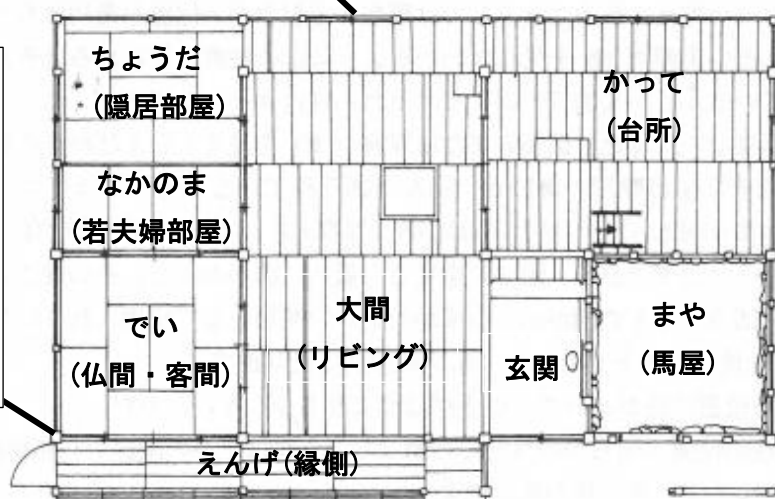


葺首が折れている。ボルトで貫と止めているところが傷んでいる。

建物全体としては、外側に下がっている。中央が張って側が下がる状態。鉄骨で全体のレベルをとり、水平に戻した。

この敷居と建具の下部が傷んでいたなので、取替え。

この長押と桁方向の鴨居との組木部分は傷んでいた。柱材はクリかホウノキであり、同種材で取り替え。



民家1階間取り図



旧中村家の仮想空間
2025.11 段階

茅（かや）という植物はありません！

茅葺き屋根は、カリヤスやススキが葺かれることが多かったようで、茅はそれらの総称です。カリヤスは「こかや」、ススキは「おおがや」と呼ばれることもあり、そこから茅葺き屋根と呼ばれるようになったと考えられます。

建物には広い屋根裏があります！

吹き抜けになっていて、屋根裏には柱は立っておらず、囲炉裏の熱が家中をめぐり、三階では蚕を飼っていたそう。このような構造は、一層三階建てと言います。

典型的な農家建築です！

玄関側の柱は角柱となるよう製材しているのに対し、裏側や2階の柱は丸太のまま、見せるところと家人の空間とを使い分けています。また、柱材にホウノキやブナなど近くの山林にある木材を用いています。このような家屋は明治には一般的でした。